

平成29年度第1回 西市民センター運営審議会 議事録

- 1 開催日時 平成29年9月11日(月) 15時～16時45分
- 2 開催場所 西市民センター 4階 視聴覚室
- 3 出席委員 吉武, 田嶋, 廣瀬, 宮下, 平山, 瀬村, 吉田, 平方, 山口, 大谷, 山本, 萩原, 星野, 石田 欠席者:長門 (順不同 敬称略)
- 4 指定管理者 西市民センター管理責任者 外2名
- 5 事務局 西市民センター館長 外8名
- 6 議事内容

(1)平成28年度運営に関する報告

- ①施設利用状況について, 指定管理者より報告
- ③西市民センター関連経費に掛かる決算状況について, 事務局より報告
- ④指定管理者の管理運営に対する評価について, 事務局より報告

(2)平成29年度事業実施状況に関する報告

- ①年間事業計画について, 事務局より報告
- ②生涯学習推進課事業について, 事務局より報告
- ③指定管理者事業について, 指定管理者より報告

<報告事項に関する質疑・応答>

(委員) 平成28年度利用状況において, 生涯学習の主体となるべき自発的な活動母体であるグループ・サークルの利用が減少している理由は何か。

(指定管理者) 利用団体の高齢化が進んでおり, 活動休止の団体が増えている。また, 新しいグループ・サークルの活動は今までと活動形態が異なり, 会費や材料代が発生するなど, 市民センターでは利用許可ができないものもある。今後, 新しい団体の受入れについては, 柔軟な対応の検討が必要と考える。

(委員) センター利用者15万人達成の目標のために利用者増加の方策は何か。

(指定管理者) 少人数の団体が大きな部屋を予約していると, 大人数の団体が部屋を利用できないことがあるため, 多くの人が利用できるよう利用する部屋割りを調整することで利用人数も増えてきていると分析している。

(委員) 自習室利用者数は, センター利用状況の統計に入っていないようであるが, この人数も利用状況に含めて良いのではないか。

(指定管理者) 自習室の利用人数は, 事務局側と協議をして利用統計に含められるように検討したい。

- (事務局) 自習室の利用人数について、西市民センターの利用人数の中には含まれているが、自習室の設置状況は、市民センターによって異なるため、7区統一の表である資料の①施設利用状況のアからカの統計表には自習室の利用人数を含めることができない。
- (委員) 他区市民センターの利用状況の比較を見ると区によって差がある。また、西市民センターの平成27年度利用者減の理由は何か。
- (指定管理者) 平成26年度に早良市民センターが改修工事のため利用できない期間があり、その間に西市民センターを利用が増え、27年度は早良市民センターが再開されたため、西市民センターの利用人数が減っている。
- (委員) 市民センターを少人数で利用するとき、小会議室が予約できないときは、視聴覚室など広い部屋を借りることになる。広い会議室を区切って使うことができるように考えてもらいたい。また、年齢が若いグループについても無料化するなどの案を考えてほしい。今は、市の施設を利用するときに、どこも駐車料金がかかり、施設が使いづらくなる人がでてくる。
- (委員) 音楽室の利用率が高いので、音楽室を増やしたり、広い部屋を区切って複数の小会議室として使用することができれば、利用率が上がるのではないか。
- (事務局) 部屋の改造には修繕費等がかかり、市の予算として計上する必要があるため、市民局と協議をしていきたい。
- (委員) 実習室は一番稼働率が低いけど、どのような部屋か。
- (指定管理者) 定員が42名、グループ形式の机の配置になっている。室内に水道があるため、絵画や書道や華道などの団体が利用されることが多い。
- (委員) 高齢化が進行してグループが解散したり、活動を休止して利用者が減ることに対して、どのような努力をすればよいか。高齢者をいかに組織化し、魅力ある施設に集ってもらう吸引力、訴求力を持つための準備をするべきだと考える。
- (委員) グループ・サークルの高齢化は、どの団体も抱えている問題である。これからは、人をたくさん集めるということよりも、足元を固めて、地元の高齢者をどのように引き止めるかということが大事になってくる。高齢者は、魅力ある場所を求めている。小さな団体を切り捨てるのではなく、そこを掘り起こして育てる姿勢がないとグループやサー

クルは増えていかない。

- (指定管理者) グループ・サークルの現状として、人数が少なくなって、集まりにくくなっているという団体が増えている。また、指導者の体調不良などで自然解散してしまったという団体がある。新規団体としては、カルチャースクールやスポーツクラブなどで知り合った人たちがメンバーとなり、新たに登録されたところもある。若者のグループは、SNSを利用した人集めで教室を開くなど、今までと集まり方が変わってきていることが、市民センターを利用しにくい原因となっている。市民センターでは、会費等を徴収するグループには、利用許可ができない。そのようなグループも活動できるようなルールづくりができないか考えている。
- (委員) 高齢者は、年齢と共に友達も少なくなり、行く場所も少なくなる。自分の興味あることなどについて、話をしたいという気持ちがある。行くことが楽しくなる、魅力あるセンターであることが必要。
- (委員) 行くことが楽しくなるような事業があればもっと魅力的になる。
- (委員) スタッフとのつながりも大切で、笑顔で迎えてもらって気持ち楽しくなるような場所であれば、多少施設が老朽化していても行きたくなる。また、地元の活動をもっと大切にして、小さな団体の広報チラシもみんなの目に触れるようにしてほしい。
- (委員) 生涯学習とは、「何かを勉強をする」ととらえるのは間違っている。キャッチボール、麻雀、パチンコもすべて生涯学習である。指導者がいて何かを教えるという事ではない。たとえば、町内の老人クラブを訪ねて行って、「麻雀教室をやりませんか、俳句の会をやりませんか」など、具体的な働きかけをすると、手ごたえがあるのではないか。管理運営は大変であり、それに加えて利用者の増員を図るのは並大抵ではないが、そのようなアプローチは大切である。
- (委員長) 今まで大きな事業を主催することが指定管理者の役目の様であったが、現場からの声として、高齢者や小規模のグループを対象とする事業も行ってほしいという要望がある。その他、市の制度についても、このような課題があるということを伝えてほしい。

【その他の報告事項】

事務局より、西市民センター駐車場の有料化について報告と説明

以上